

# ちびっこ チャンピオン

## 「豆まき会 がんばるぞー!!」

みよし保育園のなかよしたち

(左から)

さいとう ゆ いさん (6さい)  
 すがわら ほのかさん (6さい)  
 あきもと くるみさん (6さい)  
 いしざわ ゆうなさん (5さい)



このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。

### 草創教育長の「今月の一枚」

#### 憧れの職業

水島新司氏の計報に触れ、懐かしく引っぱり出しました。私が昔かいた野球漫画です。

私が小さい頃、たいていの男の子はプロ野球選手に憧れたものです。なにせ「巨人、大鵬、卵焼き」の世代。私などは、五十歳まで朝野球を楽しみましたが、気分はいつでも「四番、サード、長嶋」でした。(笑)

紙と鉛筆さえあれば、一日中漫画をかいて過ごせる子でしたから、漫画家への憧れも相当でした。

でも、その憧れもコロコロ変わりました。映画の看板屋さんの仕事場に出会い「あんな大きな看板に絵がかけるんだ」とうらやましく思ったり、金多豆蔵の人形芝居を見ては弟子入りを本気で悩んだり、先生から「おまえはキャクホンカになれる」とヨイショされ、その意味もよくわからないのにのぼせ上がったたり……。憧れのベクトルがにぎやかにあちこち乱れ飛んで、ひとり勝手に盛り上がってしまうような子だったのでしょうか。

今の子どもたちはどうなのでしょう？  
 数年前、小学校卒業前のある男の子に、将来になりたい職業をきいたところ、返ってきた答えが「コンビニの店員」。「男子一生の仕事としてはものたりない。店長とかオーナーをめざさないと」と

き返すと、「一生バイトしながら、貯めたお金で好きなゲームを買う」とのこと。

正直、みみっちい夢に失望しました。よく聞くユーチューバーとか、スポーツ選手、プログラマーの方がまだましです。自分の度量はさて置いて、身の程知らずの大きな夢をドドンと持つのが子どもというものでしょう。叶う叶わないに関係なく、その憧れの強さが、人生を突き動かすけっこうなエネルギーになっているのだと私は思います。

長じるにつれ、いやでも夢と現実の距離を客観視できるようになり、夢の捨て方やその代わりも見つけられるようになるのです。

私も憧れはしましたが、本気で漫画家をめざしたことは一度もありません。画力は自然に向上しても、私には深い思想・哲学もない、ストーリー構想力もすぐに底をつくだろう。趣味の範囲内で楽しめ。大人に必要なのは、冷静な自己分析だ！

正しい判断だったと、今は思うことにしています。(教育長 草創 文人)



深浦町の花  
 ■福寿草■  
 深浦町の木  
 ■樺■  
 深浦町の鳥  
 ■カモ■

発行/青森県深浦町 編集/総合戦略課企画調整係  
 ☎0173-74-2111(代表)